



映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

©「ちづる」上映委員会

第1回人権問題講演会 (入場無料・定員100名 *申し込みは不要です)

8月4日(日)13:30~16:30 コムズ 5階 大会議室

映画:「ちづる」2011年ドキュメント作品

講演:「妹・千鶴」映画監督 赤崎正和 さん

立教大学の学生・赤崎正和が、卒業制作として重度の知的障害と自閉症を持つ20歳の妹にカメラを向けたドキュメンタリーで、温かい笑顔に満ちたユーモアあふれる家族の日常が深い感動を呼びます。上映後の講演では赤崎正和監督自身が「妹・千鶴」を語ります。

後援:松山市教育委員会・松山市公民館連絡協議会・松山市人権教育推進協議会

愛媛新聞・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・FM愛媛・あいテレビ

愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・リビングまつやま

Do

主催:NPO法人「Do」
(松山市委託事業)



映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

第1回人権問題講演会(入場無料:定員100名*申し込みは不要です)

日時 8月4日(日)13:30~16:30

場所 コムズ 5階 大会議室

映画:「ちづる」2011年ドキュメント作品

講演:「妹・千鶴」

映画監督 赤崎正和さん

コーディネーター

NPO法人「ぷちすてっぷ」

理事 安原優子さん

【ちづる: あらすじ】

監督赤崎正和の妹千鶴は1歳11ヶ月の時に自閉症と診断され、3歳の時に知的障害があると分った。自閉症は先天的な脳の発達障害でコミュニケーションがうまくとれなかったり、状況の変化に対応するのが難しかったり、物事に強いこだわりを持ったりする。赤崎が小学校の頃、障害者を差別する“シンジョー”という言葉が流行った。それ以来、彼は妹の話題を避けてきた。赤崎の父は平成18年に交通事故で他界。以来、母久美が中学2年から学校に行けなくなった千鶴の面倒をみている。妹のことをどう説明したらいいのか分らない赤崎は母の了解をとり、千鶴をカメラで追いかけることにした。

自分の髪を誰が切るかで母と押し問答し、タレントで大ファンの大友みなみから年賀状がきたとあって大はしゃぎする妹(実は母が代筆したニセ物)。たまに鏡をみながら物を食べ、100円玉を製造年毎にきちんと整理する。母のところから黙ってお金をとり、2人で取っ組み合いのけんかに。そんなある日、家で犬を飼うこととなった。トイプードルで名前はバナナ。人の言うことを簡単に聞かない動物を飼わせることで娘に忍耐力がつけばと母が考えたのだ。犬が家に来る前夜、突然精神不安定になる妹。紙に大きくダメと書く。しかしバナナがやって来て、じゃれあっているうちに機嫌が良くなった。

妹を撮り続けるうちに、障害者に携わる仕事への関心を持ち始めた赤崎。ある日母久美にその思いを伝える。息子の突然の話に不安になる母。何か言えばキレるかも、と息子になかなか自分の気持ちを伝えられない母は、携帯を忘れて出かけたのに連絡をよこさない赤崎をなじる。かつて父親が事故に遭った時も連絡がなく不安になったことを涙ながらに息子に言う。

知的障害者の施設へ面接を受けに行った赤崎。そこで他の障害者を見て妹の将来が気になり母と話し合う。千鶴は他の自閉症の人たちとの接触が苦手で、友達を怖がる。突然2人の話を聞いていたかのように妹が活動ホームで職業訓練をしたいと言いだす。数日後、地域活動ホームに行くが、やはり施設で問題を起こしてしまう。妹の居場所が家の中以外に存在しないことを心配する母と赤崎。やがて母は故郷の福岡に引っ越すと宣言。九州に下見に行ったその日にマンションを購入してしまう。母と妹、そして赤崎の将来は？